

韓国 OBS テレビ開局 10 周年特集ドキュメンタリー「屋根のない博物館エコミュージアム」

<ナレーター> ナレーション 俳優キム・ヨンホ

落ちる夕日、生き生きしている海。みなさんは京畿（キョンギ）湾を知っていますか。

（字幕：京畿湾 黄海南道ウンジン半島と忠清南道泰平半島の間にある湾）

<ナレーター>

ここは大きな湾です。忠清南道にこんな大きな湾があることを知りませんでした。京畿湾には新しい風が吹き始めました。

<大原一興>：横浜国立大学都市イノベーション学科、現日本エコミュージアム研究会会長
（エコミュージアムの概念について説明）

「地域にある、今まであまり知られていなかったような地域の資源を探して、それを学んで、自分たちの地域がいかにか素晴らしいかを実感して、守りつつ、それを活かして、自分たちの地域をよりよくしていく場がエコミュージアムだと捉えればいいかと思います。

<ナレーター>

地域の特性を生かし、韓国だけではなく世界的に認められているエコミュージアムの未来が京畿湾にあります。

<ユン・ミョンチョル>：東国大学ユーラシアシルクロード研究所所長

わが民族がずっと昔からずっと語り続けてきたことは、生命の大切さ、自然と人間の合意を旨とするにあります。私たちのやり方のエコ、あるいは生命に関する論議を追求し、京畿湾にあるたくさんのエコミュージアムの素材を活用できれば、世界にある他地域のエコミュージアムと異なる姿を示すことができるでしょう。

<ナレーター>

京畿湾では新たな試みをしています。その道を探していくと、宝物を見ることができました。

（字幕：宝物 京畿湾）

そこにはどんな宝物があるのでしょうか。

京畿道安山市大阜（テブ）島、このあたりで一番大きな島で、大きな丘の島という意味の名前です。

（字幕：大阜島上洞村 京畿道安山市檀園区）

ここは昔から朝鮮時代まで、この地域の中心の町でした。今はごくふつうの田舎町です。

村の通りで何か一生懸命工事をしています。何か補修工事でしょうか。

<チェ・チョリョン>：作家・上洞通り公共芸術プロジェクト

上洞でずっとくらしている方々、今商店街で働いている方々、それから学生たちにインタビューし、上洞のいろいろな人たちを作業の中に取りこみ、住民たちに私たちが存在している理由、そして生きていく理由について説明する作業です。

<ナレーター>

大阜島の中心だった上洞村。通りに壁画が掛けられています。

(字幕：作品に描かれた住民たちの写真)

絵ではなく、住民の顔で埋められた壁画です。この村の主人公は住民だという大変重要なメッセージが込められています。この島はふつうの島ですが、他のところとは違ったことがあります。とてもよいアイデアだと思います。

(字幕：作品に描かれた住民たちの写真)

(字幕：『上洞の人たち』チェ・チョリョン作 大阜島の共同体的性格を意味している「船」をモチーフにして住民たちと地域を象徴するものを撮影し合成した作品)

<ナレーター>

これを見れば、私たちについても一度考えることができます。また、上洞村を他地域の人々に紹介するときにとってもよいポイントになっています。これらの作品を見ながら道を行くと活気を感じることができます。

(字幕 みんな知っている人たちです。これから大阜島で熱心に活動をしてもらえればここに絵を掛けてもらえますから、多いに活動をしてください。

住民センターに行くとき、人々をここに来て「ここを見てから行きましょう」というように言うようにすれば通りに行く人が増え行き交う人が増える通りになるでしょう。どんなアイデアでもけっこうですよ。)

(字幕：大阜島エコミュージアムセンター／京畿道安山市檀園区)

<ナレーター>

新しい大阜島エコミュージアムの活動が始まりました。

日帝植民地時期から面事務所<日本で言うと、村役場：平野>として建てられ維持されてきた面事務所が住民のための新しい施設となって誕生しました。

<イ・ガプソン>：センター長

これまでは面事務所として使っていました。ここが文化財となって、さらにはエコミュージアムセンターに指定されました。この地域の舎廊房<サランバン。客間を兼ねた主人の書齋として使う部屋：平野>の役割、旅人も立ちよることができ訪問客も立ち寄れる、そして時には宝物をさがしにここまで来る方のための場所、誰もが立ち寄れる場所になればと思います。

<ナレーター>

村の人たちはエコミュージアムセンターに集まり、自発的に村共同体をつくる作業をしています。

(字幕：上洞通りと言いますから村全体を見ることになります。大阜島の野の花、生産物までを見なければ完全に終わることになりません。それを見て終われば自由に帰ることができます。)

<ナレーター>

今日、住民たちと村を回りたいと思います。がどんなものか知りたくなりました。私の知らない島の魅力はなんでしょうか。そんなことを考えながら始まりました。最初に向かったのは、サッカー場くらいの大きさのヌエ島です。

<イ・ガプソン>：センター長

1日に2回8時間、潮の満ち引きがあるのです。

(字幕：紅海海岸(ヌエ島前の海)を越えれば行くことができます。こっこの反対側に華城市のチェブ島が見えます)

す。ハム草<海草の名前>のような塩生植物団地があります。エコミュージアムというプログラムをつくって、その地域の方とこの地域について、過去、現在、未来を感じるためのものですが、直接学ぶためにここ(ヌエ島)にきました。)

(字幕 3年数ヶ月か過ごしたのですが、大阜島がこんなによいとは知らなかった。)

<ナレーター>

これは地域の人たちも知らないことでした。暗殺の隠されてきた記憶、ソンガム学院の傷跡が残る場所です。

(字幕：牛や豚や鶏を育てる仕事をしながら労働力を搾取されていました。この子どもたちを育て自分たちの兵力の一部として使う目的でソンガム学院をつくったのです。これは日帝強占期当時の写真です。)

(字幕 ソンガム学院 ソンガム島にあった少年収容所として、日帝強占期末の1941年10月に朝鮮総督府の指示でつくられ、光復後1982年まで40年間運営)

<ナレーター>

それは、ソンガム島という小さな島でした。6歳にもならない小さな子どもにとって人権被害と無慈悲な労働搾取でした。ソンガム島はそのような痛ましい歴史として残されています。

<チェ・ジョンギル>：安山市長

(字幕：私たちがそのような胸が痛むような現実をはっきりと知っているが、それがその間どのように展開されていたかをより詳しく究明しなければならないという課題が残っており、いまだ関心を持っている方が訪れてくれるだけです。訪れてくれる方が充分にその事案を理解できるように親切な解説と説明が必要だと考えています。

<ナレーター>

じつに40年の間、国家による人権蹂躪という胸の痛む事件。まさにその近くにいたのに知らなかったということに被害者に対する申し訳なさが募ります。

<キム・ヨンフィ>：大阜島民

私たちはそのような話を初めて聞きました。過ぎてしまったことのように大体のことを聞きましたが、このように詳しく被害者数まで話して下さったのを聞くのは初めてでした。ですから申し訳ありません。人生にはそんなこともあるとは言っても、そうですね。「ここでこんなことがあったんだなあ」という。

<ナレーター>

私たちは、事実を明らかにする必要があります。暗い過去を時間の経過とともに忘れるのではなく、再びそのようなことが起きないようにしなければなりません。

(字幕：2017年5月27日 ソンガム学院追慕文化祭)

エコミュージアムは、このような悲劇が二度と起こらないようにと役割を果たしています。これこそが、まさにエコミュージアムが歴史を取り上げなくてはならない理由です。

9:43 ここから館山

<ナレーター>

ここは日本の千葉県南部にある館山市、西に東京湾東には太平洋のあるすばらしいリゾート地です。目の前の青い海のように 本当にすばらしい景色です。

平和で取り立てて変化のない館山に新しい動きが始まったと言います

(字幕：館山豊津ホール／千葉県館山) 変化の始まりは、この古い建物でした。

館山の特徴から歴史までを、館山に来る人たちをガイドするために学んでいます。

<池田恵美子>：NPO法人安房文化遺産フォーラム 事務局長

省略 (ガイドの進め方など)

<ナレーター>

地域の人たちが自発的にこのような学びと活動をするにあたっては 1人の人の権威が大きかった。

<池田恵美子>：NPO法人安房文化遺産フォーラム 事務局長

省略 (愛沢伸雄先生について)

(字幕：池田恵美子 事務局長

私たちの活動の代表である愛沢伸雄先生は高校世界史の教師でした。地域にある文化遺産を教材に作り替えながら調査・研究を始め公民館で市民の方たちと交流しながら、保存運動として発展させたことがエコミュージアムを始めるきっかけになりました。(エコミュージアムの活動は1989年から始まり約30年になります。)

<ナレーター>

なぜ地域住民がガイドをするようになったのか、その理由は何でしょう。その理由を探ることにします。

町の人々の案内で洞窟の中には行っていきます。入口の案内からふつうではありませんでした。この赤山地下壕は米軍の攻撃を避けるためにつくられたそうです。海拔 60 位の山あいの場所に 2 km のトンネルを作ったそうです。

<池田恵美子>：NPO法人安房文化遺産フォーラム 事務局長

省略 (断層の話)

<ナレーター>

地震によって地層がずれ断層が見えていて、地震学者にとっても意味のある場所です。それよりもっと大きな意味があります。

町の人々はこの赤山地下壕を平和学習の場に活用しています。ここは第2次世界大戦時に海軍がつくった秘密の施設と考えられているからです。

(字幕：赤山地下防空壕 第2次世界大戦当時、極秘航空機開発と実験に関連する秘密部隊の

地下基地、医療施設と発電施設まで備えていたと推定)

<ナレーター>

ここは戦争と平和を再び考えることのできる場所です。

<池田恵美子>：NPO法人安房文化遺産フォーラム 事務局長

省略（掘りやすく崩れない場所を選んだ…）

<ナレーター>

（地図・字幕：東京湾防衛計画図）

東京湾の入口にある館山は東京を守るために徹底した準備が必要でした。秘密の赤山地下壕もそのためにつくられたのです。

（写真・字幕：館山海軍航空隊での攻撃と落下傘部隊の実戦訓練）

<ナレーター>

決戦の場として考えられていた館山。その周辺には数多くの軍事施設がつけられました。戦争犯罪を起こした日本としては隠しておきたかった恥であり、痛ましい歴史です。しかし、愛沢先生はそうではなく、痛ましい歴史を探ろうとしました。

（地図・字幕：1945年日本軍館山防御計画図）

<池田恵美子>：NPO法人安房文化遺産フォーラム 事務局長

省略（花と海の観光地だった… 愛沢伸雄先生が活動をはじめた頃はまったく世論が動かなかった）

（字幕：震洋 太平洋戦争で日本海軍が開発し使用した特攻兵器 内部に爆弾を搭載し、敵艦艇に衝突する作戦に使用）

<ナレーター>

戦争末期、神風と言われた特攻は館山を中心に活動していたと言います。

ドイツではアウシュビッツなどナチスの犯した行為を反省して前に進んでいます。館山の住民たちもそう考えていることでしょう。

（字幕：桜花 日本が連合軍艦船を攻撃するために開発した人間誘導攻撃機）

館山の住民たちは館山の歴史をきちんと学んでいます。訪れる観光客にそのことを伝えていますが、住民たちは使命感を持っています。

<関恵美子>：NPO法人安房文化遺産フォーラム（字幕：71歳 ボランティア／館山の住民）

省略（館山は世界につながっている…わたしのライフワーク）

<増岡鎧治>：NPO法人安房文化遺産フォーラム（字幕：73歳 ボランティア／館山の住民）

省略（高校生が選挙権を持つようになる…）

<ナレーター>

（字幕：赤山探訪路）

赤山地下防空壕を出ると、もう一つの戦争の跡を見ることができます

<ボランティアガイド>

省略（掩体壕の説明…）

<ナレーター>

ガイドに連れられて高校生が向かうのは零戦の兵器庫です。

(字幕：零戦戦闘機用兵器庫 館山の階段式の地形を利用して戦闘機を格納する。戦争当時、地域住民と学生たちが建設現場に動員されたと言います)

戦争は我々の全てを破壊してしまいます。生命、人権、自由。戦争の歴史を示しているここに来て、直接目で見て皮膚で感じなければ戦争を正しく理解するのは難しいのです。そのような意味で館山エコミュージアムは大きな価値のある活動をしています。

館山は戦争の加害の地だけにたくさんの戦争遺跡が残っているのです。

<ボランティアガイド>

省略 (見てさわってみて…)

<ナレーター>

再び戦争を起こしてはならないという子気持ち、それを高校生に伝えたいという誠実な思いを感じることができました。

(字幕：守谷たつみ：わせがく 高等学校長) 省略

(字幕：館山自衛隊海軍航空隊海岸) <海上自衛隊ではなく、「自衛隊海軍航空隊」と言っている。：平野>

<ナレーター>

来てみると風も強く波も高いです。ここではどんな歴史があったのでしょうか。

<ボランティアガイド>

省略 (米軍の館山上陸…)

(字幕 館山自衛隊海軍航空隊海岸 1945年8月15日日本が敗戦した後の9月3日、米軍カニンガム准

将が率いる米占領軍3500名が初めて上陸した海辺)

<ナレーター> (字幕の内容)

恥ずかしくもある歴史ですが、ボランティアの人たちはていねいに説明しています。そして学生たちは多くのことを学んで帰ります。

(字幕：すずきかな：わせがく 高等学校学生) 省略 (感想を語る)

<ナレーター>

館山市では歴史を学べる見学コースをいくつも用意しています。エコミュージアムで歴史を扱うことが重要になったのは、ポーランドのダークツーリズムから始まりました。

(字幕：ダークツーリズム 休養や観光のための旅行とは異なり災難や歴史的には悲劇的な事件が起こった場所をおとずれて体験しながら、反省と教訓を受け取る旅行で、ブラックツーリズム、またはグリーンツーリズムとも呼ばれます。代表的な場所としてアウシュビッツ収容所などがありますが、ナチスドイツがつくったここでは 300万人もの命が失われました。今も世界からの訪問客がこ

の場所を訪れています。)

(字幕： インインジャ教授 仙台東北大学文化人類学科 戦争についてどのような痛ましい記憶を教訓として教育され、それを追求する人たちとそこで出会う人間の交感や共感。そのようなものが大変重要で人類全体に該当する知恵になり、または覚醒されるものを受けることができます。

(円グラフと字幕： 館山観光客年間誘致比率 約 36 万人)

<ナレーター>

このような平和プログラムを実施している館山。

市民団体はその内の26.7%の観光客を誘致し、地域発展の一翼を担っている。

<小沢道子>：NPO法人安房文化遺産フォーラム

(字幕：76歳 ボランティア/館山住民)

省略 (来た人にこのよいところを紹介して…)

戦争を体験した世代の人たちによる平和のメッセージ、それが本当の教育でしょう。

アイロニカルなことですが館山住民が伝える平和のメッセージですが、韓国の影響を受けたと言います。

(字幕：池田恵美子：安房文化遺産フォーラム事務局長)

省略 (私たちは逆に韓国から学んだことがあります。…)

<ナレーター>

彼らは痛ましい歴史から地域ミュージアムまで完成させたのには 1人の人の努力があったのです。

また、傷ましい歴史を受け止める住民の共感の意識があったからでもあり、また、館山の住民がつくりあげたものでもあります。

ここから京畿道華城市梅香里

京畿道華城市の小さな村、梅が香るという意味で梅香里 (メヒャンニ) と名づけられた村があります。2005 年でも香ばしい匂いが漂うところです。この村の海岸の向こうに島があります。

(字幕： ノン島 1951 年から 2005 年まで 54 年間。在韓米軍の爆撃訓練場として使われていた梅香里射撃場の目標として使われていたところです。)

<ナレーター>

いわゆる？射爆場。次々に砲弾が撃ち込まれる島は、次第に破壊され始めます。

再び戻った平和。360 平方メートル中 250 平方メートルが戻り、射撃訓練が終わった村。梅香里に平和が戻ったのはわずか 10 年前のことです。

再びこんなことがあってはなりません。

<ガイドの説明>

(字幕 今は、表面が岩石のように見える状態になってしまいました。長い年月苦しみを受け、その苦痛を受け止めていたことがこの島にそっくり残っています。)

(字幕 ノン島)

<ナレーター>

2005年までは来ることができなかった周辺の人たちが集まってきました。テレビを見たりして戦争は遠いところのことと思っている学生たちはこの悲惨な場所を見てどう思うでしょう。

訓練は終わって米軍はいなくなりましたが、この島にも村の人たちの心の中にも傷跡が残っています。

(字幕 チョンマンギョ 委員長 梅香里住民対策委員会)

<チョン・マンギョ>：委員長

敵軍の目標を爆撃しようと来たとき、その周辺に民家があって、住民が暮らしていれば、米軍射撃手も人間なので心理的に萎縮します。適当なタイミングで目標物に向かって発射ボタンを押すことができません。ですから、わざわざ人が暮らしている民家があれば、そこで訓練し、体得させるのだといいます。

<ナレーター>

戦争の便宜のために民間人のいるところで訓練をさせていたとは、どれだけ深刻なことか信じられないことです。50年にわたる爆撃訓練は民間人に絶え間ない被害を与え続けていました。器物破損はもちろん、人命被害まで起こりました。

(字幕：1989年6月20日の京畿日報「操業中の漁民1名重傷、華城梅香里郡で米軍流弾が当たる」) これ以上の被害に耐えられなくなった住民は力を合わせて梅香里の平和を求めました。美しい梅香里という名にふさわしくない廃棄物、これらを新しい作品にしました。子どもたちは想像力で痛みを作品に昇華しました。

(字幕：梅香里スタジオ (旧メヒャン教会 京畿道華城市ウジン町梅香里))

<字幕 作家イ・ギイル 梅香里スタジオ>

この建物は1968年につくられました。1984年度に横に新しい教会を建て、この教会はほとんど放置されていました。その後は電気もつながらずこのような状態でした。昨年、私たちが京畿湾エコミュージアムの事業の一環として「梅香里スタジオ」として作り直し、村の人たちと一っしょに意見交換して、展示もしたいと考え、昔の雰囲気を持続したくてこのような展示場をつくったのです。

(字幕：梅香里スタジオ 旧梅香里教会を改築して京畿湾エコミュージアム華城圏域拠点空間)

つくられてから村を守ってきたこの教会、新たに平和を学ぶ空間として生まれ変わったのです。村の歴史を見てきた教会、その空間での作品作りはどんな説明より子どもたちの学びになるでしょう。梅香里の歴史を学んだ子どもたちがつくった作品は芸術家のものより真心がこもっていると思います。戦争にはなじみのない子どもたちもここで戦争を学び自由に作品をつくる場となります。

(字幕：学生の発言 作品ですが、残骸の中に本の花があります。ノン島というところには爆発物のようなものが多いでしょ。そういう状態の中に一筋の希望、それが「1本の花」なのです。)

(字幕：ホンソンジェ 金浦外国語高校 ちょっと混乱しています。テレビを通してたくさん見ました)

が、私たちが受けるかもしれない被害は、直接的な戦争ではなくとも受け取ることが多いと感じるようになりました。一刻も早く平和がつくれこのような被害がなくなればいいのと思うようになりました。)

<ナレーター>

時間が過ぎれば、この場所は数年後にはいっそう驚くべき場所になるだろう。そんな可能性を感じました。

(字幕：イ・ギイル 作家)

ですので、過去の過ちよりはこれから私たちが作り出さなければならない、そして梅香里が目ざすべきこのようなものが(梅香里スタジオ)に込められていると思います。

<ナレーター>

芸術を通して私たちは過去の歴史を知ることができます。歴史は私たちの心の中で簡単に消えていきますが、芸術は私たちに生き生きと過去を思い起こさせることができる植物のようなものです。梅香里のように京畿湾には痛ましい歴史が多く残されています。先に見たソンガム島や日帝強占期に堤岩里など民間人の血が流された歴史があります。そのような現場はどのような教科書(記述)とも置き換えることのできない例です。

(字幕：2017年3月1日 華城堤岩里3・1節万歳行事)

<ナレーター>

それこそが私たちが守るべき宝物です。

(字幕：チェ・インソク 華城市長)

(梅香里の痛みは私たちだけのものではありません。世界的にも共感を得られる痛みの歴史ですが、ここでダークツーリズムを作り出せば多くの人の共感を得られるだけでなく、私たちの華城でおこなわれていることは地域関係機関の主導ではなく、むしろ地域住民が主導して推進していることを華城市が足りない空間、専門家などを補い、再建するときには一部の予算を支援するなどして、華城の問題は地域住民の主導でうまく進められていくことと判断しています。)

<ナレーター>

京畿創作センターは各地にあるエコミュージアムの一つです。

(字幕 京畿創作センター 芸術作家たちの作業空間、展示空間であるだけでなく町の住民といっしょに芸術活動をしている地域共同体)

<ナレーター>

ここでは数多くの芸術家たちが活動をしています。エコミュージアムや創作センターが定着するためには住民の協力が必要です。

(字幕：「満潮」ソソミナ作 社会防潮堤があれば政治性が変わり、失われつつある島の言葉、満潮を表現した作品)

<ナレーター>

芸術家の参加も始まりました。

(字幕：作家ソソミナ 京畿創作センター 今日満潮がむすばれ、このような形で24時間を表現

したのです。4枚、5枚、……と、満潮を数えながら水の時間がどのように表現されているかを示す
ドローイング作業です。)

<ナレーター>

地域的な表現は価値のあるものです。

(字幕：「瞬間的なそしてドロップ」 ユンヒ作 いろいろな色合いで現れる海水の流れ、刹那的な現象とみられる物理的潜在性を時間的に再現)

<ナレーター>

作家の目、作家の視線で地域を発見すること、それが作家たちの役割でもあります。

(字幕：自画像) チェジョンズ作 1990年代半ばに亡くなった塩田労働者たちの話を描いた映像芸術
京畿創作センターがある大阜島にはたくさんの鳥が飛んできて休みます。だからでしょうか、魚の作品をつくる作家がいます。イヨンギ作家は、この島の宝物は島で見つけられるといいます。

(字幕：作家 イヨンギ 京畿創作センター この魚は何でしょうか。これはまだ何も考えずに
つくっているのですが、蓮の中の女王、蓮の中の女王の魚でしょうか。王冠をかぶっているようです。)

<ナレーター>

時間があれば町を観察する彼。作家暮らしの中で一番楽しい時間のひとつだといいます。

(字幕：作家 イヨンギ 京畿創作センター 一日に2回水が引いたり満ちたりします。窓を開
ければ海が見え。海水が引いたり満ちたりしながら島が見え、人々が行き来するのが見え、それがい
つも気になります。)

<ナレーター>

この島の固有の物、それは価値あるもので、宝でもあります。そのような意味で、チェジョンズ作家は京
畿湾の宝物を生々しく表現する人です。以前は島の住民のほとんどの方がふつうにしていた仕事で、
今では無くなりつつある仕事を作品を通して残そうとしています。

(字幕 チェジョンズ作家 京畿創作センター だいぶ前にリサーチした映像ですが、ずっと前に
あった塩田で働いていたおじいさんたちをさがしながら、今年の夏に作業した映像です。)

(字幕：『自画像』 チェ・ジョンズ作 1990年代中盤になくなってしまった塩田労働者たちの話
を伝える映像芸術)

(字幕：キム・ヨンスン 塩を集めてかますに詰めるのだが、それが大変だった。)

<ナレーター>

無くなりつつある記憶を集めて映像に残していく作業です。

(字幕：チェジョンズ作家 京畿創作センター この方たちが誰かに話をし出す理由は特にな
いことが多いですね。本人の疲れ果てた人生の一部分ですが、私はその方たちのそんな人生を逆転
させ、その方たちの人生も記憶もみんなにとって大変貴重なものだと考えています。)

<ナレーター>

誰かが記録し語らなければ、ここに塩田があり、働いていた人たちがいたということは忘れ去ら
れていきます。私たちが見つけ出し伝えなければならぬ宝物です。

(字幕： チェジョン作家 京畿創作センター このプログラムの結果が重要なのではなく、その方たちといっしょに過ごした時間がどんなに意味ある貴重な時間だったか、そして私も人生について学ぶことができ、その方たちもあまり慣れていられない美術を通して人生の意義のようなものを感じることができる場面があればとてもうれしいです。)

<ナレーター>

芸術家の目を通して残された作品はそういう宝物はどこにあるのか、それを教えてくれる場でもあります。芸術家たちも宝物です。芸術家たちのアイデアが集められ、それを実現まで導いていく京畿創作センターは、芸術家たちへのアジテーターであり、彼らを手助けしています。

(字幕 パク・チョンガン センター長 京畿創作センター 個人の作業だけでなく共同作業、そして、地域社会で共同作業をすることのできる方たちですので、そのような作業のために京畿創作センターの役割は京畿湾エコミュージアム事業でも大変重要な役割を果たしています。)

<ナレーター>

ここで大変重要な方がいると聞きました。

(字幕 文化空間『島の場所』 京畿道安山市檀園区)

ここでの暮らしや人々が重要だと考える作家たちの代表がパクチンさんです。

(字幕： パク・チン代表 文化空間島の場所 京畿創作センターで1年半、ほとんど2年間いましたが、そこで知り合ったおじいさん・おばあさんたちと、私の考える持続性という点からも、関係ができた方たちと関係を絶ってしまうのがいやだったんです。そこで、大阜島で一度絵を描いてみたらどうかと考え描き始めました。

(字幕 島内の開かれた基礎『上洞追跡』 島上洞村の住民の日常を中心に地域リサーチをおこない上洞村の過去と現在が写真とともにそっくりそのまま記録されている本)

かつての大阜島の中心だった上洞村の価値をそのまま残そうとしています。

(字幕： 1950年代結婚式 1970年代喪があげた後の集合写真 1960年代大阜国民学校6年生卒業前の遠足)

<ナレーター>

1950年ころからの住民たちの生活を再現するため、住民たちをたずねて写真を集めて作り上げました。

(字幕： 1980年代面事務所上り坂で 1980年代村の行事)

(字幕： 昔は人たちがよく「上洞」と言っていたじゃない。でも地図を見ると「上洞」という地名はない。上洞の位置を探してみようと住民たちに聞いてみたの。)

<ナレーター>

誰かにやれと言われて始めたのではなく、自分が知りたくて始めたことです。

(字幕 そうしたら残っている古い地名の中で今も使われているのはチョンヒョン村というものでした。今でもそうですね。)

(字幕 パク・チン代表 文化空間島の場所 なぜかという生きておられるお年寄りの大部分は

1900 年代に生まれた方で、もう少し若い方は 1920 年代生まれなので、その方たちが記憶している上洞のようすから昔を知るしかないのです。ですので、私たちが本を作るとき、私たちのためでもあり、きちんと記録しなければその内に歴史が忘れ去られていってしまうかも知れません。どんなに大変で苦しい作業であっても忘れられかも知れないので記録しなければなりません。そういうことも村の人たちと共有したいです。)

<ナレーター>

今も村に住み、村の記録を集めようとしているバクチンさん。今回は公開ができない不法文書を集めています。

(字幕 サイ 音楽家 歌を作って畑に蒔こう、田にも畑にも農作物を持っていかないよというキャンペーンソングをつくりたいです。)

(字幕 村の青年 チンヒョンム もしかして農作業をしていて外から来た人たちから被害を受けはしないかと考えたので加わってみようと思いました。)

<ナレーター>

村の青年たちのためにキャンペーンソングをつくらうというのです。

(字幕 今、体にいいと言えば、タンポポやなにか、それから山にはワラビやキノコがいっぱいあります。それは私たちの生活費ですよ。外からの人と立場を変えてみると、村の人たちの職場生活なんです。農民の月給をこっそり持って行くのと同じではありませんか。でも外からの人はそんなふうには考えないですよ。いたずらで盗むのは空腹のためにちょっとだけすることで、窃盗はそうやると決めて持って行くことですね。

(字幕 チャンクンベ 大阜島住民 私たちは 1 人で仕事をしそれぞれが場所が変わりますから団体があるわけではありません。そのような人たちを通して私たちができなかった何かを成し遂げれば、私たちにとっては仲のよい人です。)

(字幕 家に母がいるので中に入れてみてください。)

<ナレーター>

住民たちのことを知るには、直接会って顔を見ながら聞くことが重要です。

(字幕 自分も自分の仕事を全部できるわけではないのですが、その人たちがいいか悪いかはちょっと言いづらい。人とつきあうのは難しいことですし、少しずつ一步一步譲り合えば大きな問題はなくなるはずです。)

(字幕 サイ 音楽家 見通しがありますね。互いに、こそこそいなくなったり持って行ったりしなければいいんですが。そういうことを音楽でどう物語るか、今考えているところです。

<ナレーター>

来た人は被害を与えずにすむ奇抜なアイデアを考えています。どんな歌詞が生まれてくるか楽しみです。

(字幕 音律に合わせて助詞を変えると、もう 1 行付け加えなければならなくなった。)

(字幕 大阜島エコミュージアムセンター 京畿道安山市檀園区)

<ナレーター>

今日は騒がしく、人が集まってきました。キャンペーンソングのお披露目の日です。

(字幕 ♪通り過ぎたおじさん 落ちた葡萄は何粒あげればいいかな。… 入らないで私の畑だ こっそり逃げないで 私が育てたものよ あなたは何でもないと考えるかも知れないけど はっきり言わせてもらえばそれは盗みです。

多くのところで共同体が消えてしまった今、住民のために歌を作って歌います。消え去った共同体をもう一度作り直すことはできないでしょうか。

(字幕 キム・ソンギョン博士 地方社会研究院 開発の過程で住民たちが開発の主体として立ち上がることはありませんでした。常に開発の対象となり、わずか10年前でさえ国家主義、中心主義が推し進められていましたが、今や地域社会主義、地域主義の方向に向かっていますが、その際にエコミュージアムが一つのキーワードとして作用しています。そのように理解していただければと思います。)

<ナレーター>

人々が心を一つにして大きな変化が起こりそうです。

(字幕 シファホ上洞開発)

住民たちは行動を開始しました。昔のくらしを探し求めながら新しい生態教育を始めました。

(字幕 ハン・ミヨン チーム長 シファホ生命を守る会 シロアシイソガニの特徴が干潟の深いところに入らなくても近くで観察することができます。

(字幕 シロアシイソガニ 我が国の西海・南海の干潟に棲息する滅種危機種 この干潟には多くの生物が住んでいます。自然保護域として指定されました。)

<ナレーター>

自然保護域として指定されましたあと、観察し写真を撮る体験プログラムが作られました。さあ子どもたちといっしょに見てみましょう。

(字幕 クオンガヨン 安山市檀園区コチャン洞 シロアシイソガニを見て、珍しかったです。小さな子どもたちが出てきました。

(字幕 キムボネ 安山市檀園区シングル洞 このカニたちも生命なのですから人間の利益のための干潟ではありません。だから「このカニたちも生命で守らなくてはならない」という考えになりました。)

<ナレーター>

もう一つの生命が誕生しました。

(字幕 ハンミヨン チーム長 シファホ生命を守る会 建物を作り、博物館というものの中で人々が見て学ぶより、直接現場で生きている自然を見て学ぶことははるかに多くの情報を得られ感性も育ちます。人々に多くのことを与えることができると考えます。)

<ナレーター>

京畿道始興市干潟生態公園。

有名になりましたが、新たにつくっている人たちがいます。

(字幕 何をつくってるのかな、行ってみよう。いまは 1 本の葦ですね。それをこうしたらどうなるかな。簡単に折れてしまうね。弱い葦をこうやって長く編んでつづけて結んでいくよ。鳥が巣を作るように)

<ナレーター>

子どもたちの目がキラキラしています。みんな葦でつくったこの作品に関心を持ちました。

(字幕 チョンソギョン 作家 地域活動作家、地域住民 この地域の住民たちが生態をうまく利用し活用するためにはまず理解することが必要ではないですか。認識を新たにして新しい活用方法をつくり出せるよう、そのような努力をエコミュージアム事業に関わっています。その人がしなければならぬことだと考えます。)

<ナレーター>

葦の遊びで楽しそうな子どもたち。

(字幕 私たちが葦を差し込むからあなたたちが巣を作って、かっこいい親鳥になるよ)

<ナレーター>

日々の生活について考えさせられます。これがエコミュージアムの力ではないでしょうか。

(字幕 キム・ユンシク 始興市市長 始興の干潟と塩田周辺に生えてくる葦で芸術家がデザインする形に葦を編んで、そこで子どもたちが入って本を読むことのできる作品、そういう空間演出をしてくれました。そういうところに生命力があるのではないかどうか、多くの人たちを幸福にできるか否か、その作家が葦を編んだその大人たちが幸福だから多くの人たちが楽しめる作品になっているのではないのでしょうか。)

♪ じゃんけんぽんの歌を歌う子どもたち

<ナレーター>

生えていた葦は子どもたちの読書室になりました。お母さんの微笑みの中にいるようです。

(字幕 キムソンギョン博士 地域社会研究院 私はどうすればエコミュージアムが国家のトレンドになっていくかを見ています。京畿湾が持っている生まれつきの価値とコンテンツがありますが、それらを、社会的に再度光を当てコンテンツとして発掘すれば「素晴らしい機会になる」と考えられます。)

(字幕： チェ・ジョンギル 安山市市長 市民たちが無理に自然史博物館や生態博物館を訪れなくても、エコミュージアムの中に生態と文化、芸術、歴史、また、海岸を楽しめる空間としてつくることできれば、より穏やかな気持ちで都市のヴィジョンとしてともに充分にエコミュージアムはよい言葉だと思います。)

<ナレーター>

昔から今までであり、これからも維持していかなければならない自然や私たちが学んだ歴史は後世に伝えていかななくてはなりません。隠れていたこの地域の価値あるものをみなさんはごらんになったでしょうか。

(2024/05/14 平野昇)